

# 東京白楊だより

第2,3合併号

昭和55年7月25日  
函館中学校  
函館中部高等学校  
白楊ヶ丘同窓会東京支部



御挨拶

白楊ヶ丘同窓会東京支部  
支部長 北川有光(26期)

昨年八月、母校における同窓会の年度総会に、在京の諸君を代表して小泉龍彦君(52期)と共に出席し、その席上当支部初代の支部長齋藤鎮雄先輩(21期)と二人、本部の副会長に推され、東京支部成立の大きな意義を認めてもらいました。

更に本年三月十日には、母校の卒業式に同じく支部を代表して列席、同日開催の同窓会新入会員歓迎会において歓迎のことばを述べました。この二つの年中行事に出席のことと、秋の支部総会に母校並びに本部から代表が出席されることは共に大切なことで、永続を祈ります。

在来の在京函中会(旧制)に併せて、新制中部高校卒の諸君を加えた現在の支部結成を志してから約十年。その必要なし、二部制等々の声もあり、加えて本部との連絡思うにま

かせず。然し、道産ッ子の粘りで遂に出来上ったという感じであります。

偏に齋藤鎮雄先輩を初め結成準備に情熱を注いだ第一回常任理事各位の昼夜をわかたないご尽力によつたものであり、その感激未だに醒めず、改めて厚く厚く御礼申し上げる次第であります。

母校に感謝し、母校に思いを到し、先輩後輩の結びつきを保つことが常識であるといっても、マンモス東京におけるこのようなまとめが如何に難事であるかに想いを寄せられ、母校並びに本部においてもこの支部組織を末長く大切にして頂きたい。

姿、形こそ変れ、△白楊魂▽の掲額を中心とした、厳然たる真の自由主義を貫く訓えこそ、民族の、そして人類のための、それぞれの職場における先達となるための精神である



より大きく…発展されることを

白楊ヶ丘同窓会東京支部  
前支部長 齋藤鎮雄(21期)

と誇りに感じております。同窓会は 先輩後輩、仕事の面においても互単なる親睦や懐古趣味のためのもの、いに足らざるを励ましあつて、最高のであつては意義がないと存じます。人格を形成することを切望します。

52年夏だったと思う。函中卒業有 見た時は感激もさる事ながらさすが志の方が7名突然私の事務所を訪れ、函中生の絆だと驚いた。

「昔の函中会を復活させませんか」と話を打ち込まれた。勿論私とて異存はなく、双手を上げて賛成した。そのあとで「ついでに齋藤さんに初代会長を」ときり出され、今度は困惑した。前進、後退、話はずれたが、とにかく北川君他6名、ついに土俵外に寄切られ、引受ざるを得なくなつた。

考えるに卒業後、同期、同輩の集いは我々の時代でも良く行ったが、これにプラス縦のつながりを探る事は大変な事であり、まして新制高校卒を含めるとなると並大抵の仕事ではないと新たに作戦を練つた。とにかく王子の和田君とも逢い、先輩格の長老よりも若い世代をさぐり出し活気みなぎる会づくりにしようと話合つた。

幸い近くに旧制、新制の接点である、三国、福津、小泉君等が居り、彼らに手弁当で各年度の幹事役を担いで出してもらつた。正直言つて第一回の東京支部総会に360人の出席を努力に期待する。

より大きく、よりたくましく、より優れた名門白楊ヶ丘同窓会に発展することを祈る。北川君の情熱、各スタッフの才覚、努力に期待する。



### (3) 東京白楊だより

窓の先生方の協力ぶりでありました。授業のあいまを縫っての仕事、時には休日返上しての活躍、早朝から深夜にわたる作業、全校挙げての行事とはいいながら、同窓会には同窓会独自の事業もあり、殊に無償の労力提供なので、事務局をあずかってた私など、ただただ頭を垂れ合掌した次第であります。おかげで同窓会の新聞「白楊だより」なども、年一回の発行ながらようやく復刊しました。配布の方法など、まだ研究の余地があるようですが、ともかくも同窓の先生方のお力で復刊したので、今後ますます内容を充実して発展されるよう祈ってやみません。

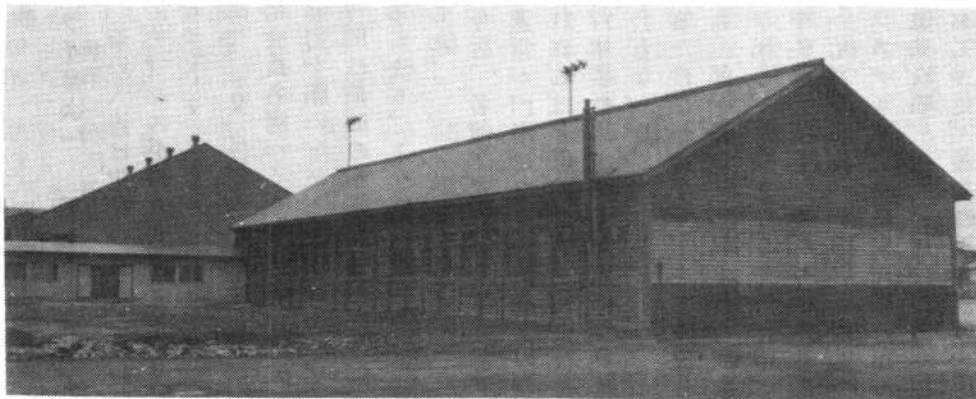
考えてみると、同じことが東京支部にも当てはまるはずで、支部の仕事にたずさわる役員皆様の御苦労に対し、深甚なる敬意を捧げると同時に、支部会員各位の御協力を切にお願いしたいと思えます。函中を最終出身校としない方々が多い性格上かなり困難な点もあるうと思われませんが、白楊ヶ丘同窓会東京支部発展のために、お力をおかし下さいますように念じてやみません。

今日は五月十八日、日曜、快晴。桜は満開を過ぎましたが五稜郭祭りの最終日。この分では函館山も相当の人出でしょう。東京支部の皆さん、鷗鳴く宇賀の浦の潮騒が聞こえますよ。いかの刺身がおいしかったですよ。もし帰省なさる機会がありましたら、

是非母校にもお立ち寄り下さい。最後に皆様の御健康と御多幸を祈りつつ筆を擱きます。

ただ一つの残存運動場

昭和55年5月



### ▲母校近況▼

一 卒業生の進学状況より

国立大への志向強まる

函館中部高校教諭

小葉松 治(48期生)

二年目の国立大共通一次試験は、卒業生三百五十六名の八十五%にあたる三百三名が受験し、北大では、現二十八、浪十四、計四十二。北海道教育大では、現三十、浪六、計三十六。東大は、現三、浪一、計四が合格。国立大合計では、現百三十、浪六十四、計百九十四。私大、短大等を含めて、合格数五百三十七の好成绩でした。

函館の経済不況を反映してか、ここ数年、国立大への志望が増加しております。

教育大函館分校の入試

北海道教育大の一次配点は千点、二次国語、数学I、小論文各百点で、計千三百点である。

共通一次が行われる様になってから、模試は各高校毎に実施不能となり、業者テストを利用する。その結果、コンピュータが、どの大学のどの学科に、どの程度の学力の受験生が多いかを知らせる。

昨年迄は、教育大函館分校の合格者三百名は、市内、道内、本州が三等分されていたが、本年は本州勢が四十八%に大巾増となった。本校では昨年同様の合格数を確保

したが、教育大函館分校に、津軽海峡と言う地の利が存在しなくなった事を、函館勢は知らされた。

母校函館中部高の進路指導の概況

共通一次試験の実施によって、大学入試は改善されていない。函中生の多くは、一次、二次の必要のある国立大を志向する。

大学入試の構造が、大巾に複雑となったため、三十年以上も実施している実力考査だけでは判断が困難である。志望大学毎に異った業者の校外模試を利用し、多数の志望者の中の学力を判定し、不足を補うため、函中生はがんばっています。

先輩諸氏の巣立っていかれた、白楊ヶ丘では、現在も、高い志望を掲げた後輩達が、すばらしい青春の一頁を作りつつあります。あたたかい激励をお願いいたします。

### 現在の五稜郭風景



東京支部第二回総会 出席者二百五十名盛會裡に終了

「将棋四方山話」特別講演 二上 達也九段  
 「若人よ！勇氣をもってトライせよ」 齋藤支部長挨拶

前回同様、平河町松屋サロンにて、「若い人達は先輩の良さを吸収し日も同じく十一月二十二日、第2回支部総会は開催された。

総会に先立ち、日本将棋連盟専務理事二上達也九段（二十五年卒五十二期）の特別講演があり勝負士の棋風将棋界のウラ話は誠に興味あるものでした。

定刻六時には二百名を越える会員

が集い、函館からお見えになった横田先生、津島先生を囲んで会場は既に賑やかなふん囲気になりました。まもなく伊東常任理事の司会で総会が開始され、会務及び決算報告があり、齋藤支部長の挨拶がなされました。



東京支部第三回総会

支部運営基金百万を突破！

昭和五十四年十月十七日午後六時から、千代田区平河町全共連ビル六階松屋サロンにおいて、第三回支部総会が開催された。

この総会において運営担当役員に与えられた目標が3点あった。第一は、支部長の交替、第二は年会費制を今回はじめてとり入れて、その徴収をおこなうこと。第三は支部の運営基金を百万円プールすること。

初代支部長齋藤鎮雄氏の任期が、第三回総会前日で満了したため、後任には副支部長であった北川有光氏が選出され、満場一致の賛成によって第二回目支部長が誕生した。壇上において、齋藤前支部長と北川新任支部長が固い握手をして、引継ぎの挨拶を交換した。

初代齋藤支部長が2年にわたる任期中に、ぜひ完成させたいと願って全役員に協力を訴えていたものは、東京支部同窓会名簿の編集、発刊であった。名簿編纂のために、



福津、小泉、佐藤、三国の役員が中心になって、昭和五十三年の秋から、京支部名簿の発刊案内が、第三回総会案内と一緒に発送されたのが九月

以後、名簿作成によりますます会の運営が円滑になり会員相互の親睦が計れればと思います。司会は美しき27年卒の片山明子女史につがれ、宴会となった。

宴たけなわになりギターの流して北島三郎、春日八郎顔まけの演歌がとび出し、一段となごやいだ中、29年卒佐藤美江子女史、37年卒林高裕氏（元音楽部員）を中心に即席のコーラスグループが登場、思い出の歌を数曲合唱、その美声に万雷の拍手がおこった。最初は函中同窓会に女性がいるのは考えられないなど云っていた大先輩もはやいだ雰囲気にいつしかくつろぎ席を変えてほしいとの始末、刻々と時間も過ぎ、ピアノ伴奏により同窓会歌、中部高校々歌等の斉唱、会員名簿の完成を次回の総会までと祈念しつつ、万才三唱、無事閉会した。

その努力の結晶である東

